

令和5年度

研究紀要

～ふきのとう～

児童生徒が主体的に学び、
その学びを実感する授業づくり

秋田県立比内支援学校たかのす校

はじめに

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の5類感染症への位置付け変更となり、4年ぶりに新型コロナウイルス感染症発生前に近い活動を行うことができました。地域行事への参加、ボランティア活動、学校間交流、来賓を招いた学校行事。地域の方に見守られ、声援の中で活動する児童生徒の姿は生き生きとしており、人に認められることの大切さを実感した1年となりました。

今年度は「児童生徒が主体的に学び、その学びを実感する授業づくり」の研究主題の下、2か年計画の1年目の年で、「教科」に焦点を当てて研究に取り組むことにしました。その教科における目標と評価を明確にし、小単元間のつながりや他の学習場面と関連した単元づくりや実生活につなげ、学びの実感につなげること、また、ICT機器の効果的な活用を目指して研究に取り組んでまいりました。小学部は算数科、中学部・高等部は国語科を取り上げ、学習指導要領に基づいて単元目標を設定したり、抽出児童生徒の変容を継続的に見取り、単元の改善を行ったりしてきました。児童生徒に配付されたタブレットや各教室に備えられたモニターの活用も日常的に見られるようになりました。また、学習の場面だけでなく、単元終了後の他の学習や実際の場面で学習したことが生かされるなど、「学びの実感」が感じられる場面を随所に見ることができました。

研究の目的の一つである「めあてや振り返りの在り方や具体的な手立て」など、まだまだ研究を深めていく必要があります。本紀要を御高覧いただき、忌憚のない御指導・御助言をいただければ幸いです。皆様からいただきました御指導を次年度の取組に生かしてまいりたいと思います。

最後になりましたが、研究を進めるに当たりまして、秋田県教育長特別支援教育課の指導主事の皆様から御指導と御助言をいただきましたことに心より感謝申し上げます。今後とも、本校の研究活動に御指導、御支援くださいますようよろしくお願いいたします。

副校長 福士 智子

目 次

はじめに

I 全校研究について 1

II 学部研究について

・ 小学部 1 6

・ 中学部 3 5

・ 高等部 5 6

研究同人

全校研究について

1 研究主題

児童生徒が主体的に学び、その学びを実感する授業づくり（1年／2か年）

2 研究主題の設定理由

(1) 過年度の研究より

令和3年度、4年度は、研究主題「児童生徒が主体となって学びをつないでいく授業づくり」の下、授業実践を通して研究を推進してきており、その成果と課題は以下のとおりである。

【成果】

- ・単元・題材検討日を全校で1回、学部で5回実施し、「地域を学習フィールドに、地域で学び、地域と学び、地域に貢献する教育活動（絆プロジェクト）」を中心に、学習内容や時期、各教科等との効果的な関連付けを図り、教育課程の編成へとつなげてきた。
- ・学びをつなぐ支援（「時」「人」「場」「指導の形態」）の検討と授業実践を積み重ねたことで、教員一人一人の学びをつなぐ支援についての理解が深まり、具体的な支援の方法を蓄積することができた。

【課題】

- ・単元づくり、授業づくりの双方において、定期的に検討や改善を積み重ねてきたが、「各教科等を合わせた指導」の単元及び授業の目標の明確化や評価の在り方が課題として残った。また、それに伴い、一単位時間の授業におけるめあてや振り返りの具体的な手立てをより一層検討し、改善していく必要がある。
- ・授業におけるICT機器活用については、実践で終わってしまうことが多かったため、その実践について丁寧な評価と改善をし、より効果的な活用方法を探っていく必要がある。また、授業において効果的にICT機器を活用していくために、職員へ対するICT機器活用の研修を充実させる必要がある。

(2) 学校の現状と児童生徒の実態より

本校は、北秋田市に昭和52年に開校し、大野岱吉野学園や陽清学園等の施設に隣接している。児童生徒総数は44名（小学部14名、中学部14名、高等部16名）である。本校は知的障害のある児童生徒を対象としているが、発達障害の状態像を示す児童生徒、肢体不自由のある児童生徒、医療的ケアを要する児童生徒なども在籍しており、障害の重度、重複、多様化が顕著である。

本校の教育目標は「自立と社会参加」であり、その達成に向けて様々な学習活動を展開している。これまでの取組から、児童生徒には主体性や意欲が育ってきており、様々な力を身に付けてきているが、児童生徒の学びの実感や、学んだことの十分な定着、活用へ向けた取組の充実が課題として挙げられる。

(3) 学校経営方針より

- ・日々の授業評価と改善等の研究を推進することで、教師の指導力及び専門性の向上を図る。
- ・体験的、実証的な学習を創意・工夫し、常にチャレンジある学習活動を展開する。
- ・学習指導要領の基本的な考え方を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点と、ICT機器の効果的な活用等により、授業の質を高める。

本校では、「地域を学習フィールドに、地域で学び、地域と学び、地域に貢献する教育活動（絆プロジェクト）」を中心に、学習内容や時期、各教科等との効果的な関連付けを図りながら、よりよい教育課程の編成へとつなげてきた。しかし、昨年度の研究の課題として挙げたように、絆プロジェクトを進めていく中で、該当する教科や各教科等を合わせた指導の目標や評価に曖昧な部分が生じ、児童生徒の学びの実感が不十分な場面が生じてきている。そこで、単元、及び一単位時間の授業における

目標及び評価を明確にし、導入や振り返り場面の手立てを工夫、改善しながら授業実践を積み重ね、児童生徒の学びの実感を高めていくために本主題を設定した。研究1年目となる令和5年度は教科を対象とし、授業の目標及び評価の部分に焦点を当て、児童生徒が主体的に学び、その学びを実感できる単元づくり及び授業づくりを目指していく。

3 研究の目的

- ・令和5年度は教科に焦点を当て、その教科における目標と評価を明確にし、小単元間のつながりや他の学習場面との関連の検討を重ねながら単元づくりを進め、よりよい教育課程の編成につなげる。
- ・児童生徒が主体的に学び、その学びを実感するための、めあてや振り返りの在り方や具体的な手立て、効果的なICT機器の活用方法を明らかにする。

4 研究仮説

教科を対象に、目標や評価を明確にした単元・授業づくり、及び一単位時間の授業におけるめあてや振り返り、手立てなどを工夫しながら授業改善を行う。これらの実践を積み重ねていくことで、単元や授業の質が向上し、児童生徒一人一人が目的意識をもって主体的に学習活動に取り組み、学びを実感する姿を実現することができるだろう。

5 研究内容・方法

(1) 児童生徒が主体的に学び、その学びを積み重ねる単元づくり

- ①研究対象となる教科の目標及び評価の視点を明確にした単元づくり
 - ・研究対象となる教科の年間単元、及び小単元の検討と評価
 - ・他の学習場面との関連付け
- ②抽出児童生徒の変容の継続的な見取りと、それに伴う単元の改善
 - ・学年、学習グループにおける、抽出児童生徒の実態や目標の検討と整理
 - ・抽出児童生徒の変容の定期的な評価と共有
 - ・抽出児童生徒の変容を受けた、単元の改善

(2) 児童生徒が学びを実感できる授業づくり

- ①「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり
 - ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に沿った、一単位時間の授業の構成及び手立ての検討
 - ・一単位時間の授業の目標、及び評価の検討、改善
 - ・児童生徒が主体的に学ぶ姿、学びを実感する姿の明確化
 - ・めあてと振り返りの在り方の検討と実施、改善
- ②研究授業と授業研究会の実施
 - ・各学部の事前授業研究会、全校授業研究会の実施
- ③ICT機器の効果的な活用方法の検討と実施
 - ・ICT機器の活用の一一人一実践と、紹介し合う機会の設定
 - ・研究対象となる教科における、ICT機器活用の継続的な実施と改善
- ④授業づくりの情報交換、共有の機会の設定
 - ・学部及び全校でグループで授業づくりに関する情報（教材、板書など）の共有する機会の設定

(3) 実践を下支えする研修会の実施

- ①全校研究会の実施（全3回）
- ②研究日の実施（月1回程度）
- ③ICT機器活用に向けた研修会の定期的な実施
 - ・ICT推進リーダーと連携した全体研修会の実施（年2回程度）
 - ・学部ごとに、児童生徒の実態やねらいに即したミニICT研修の実施（月1回程度）

6 研究計画

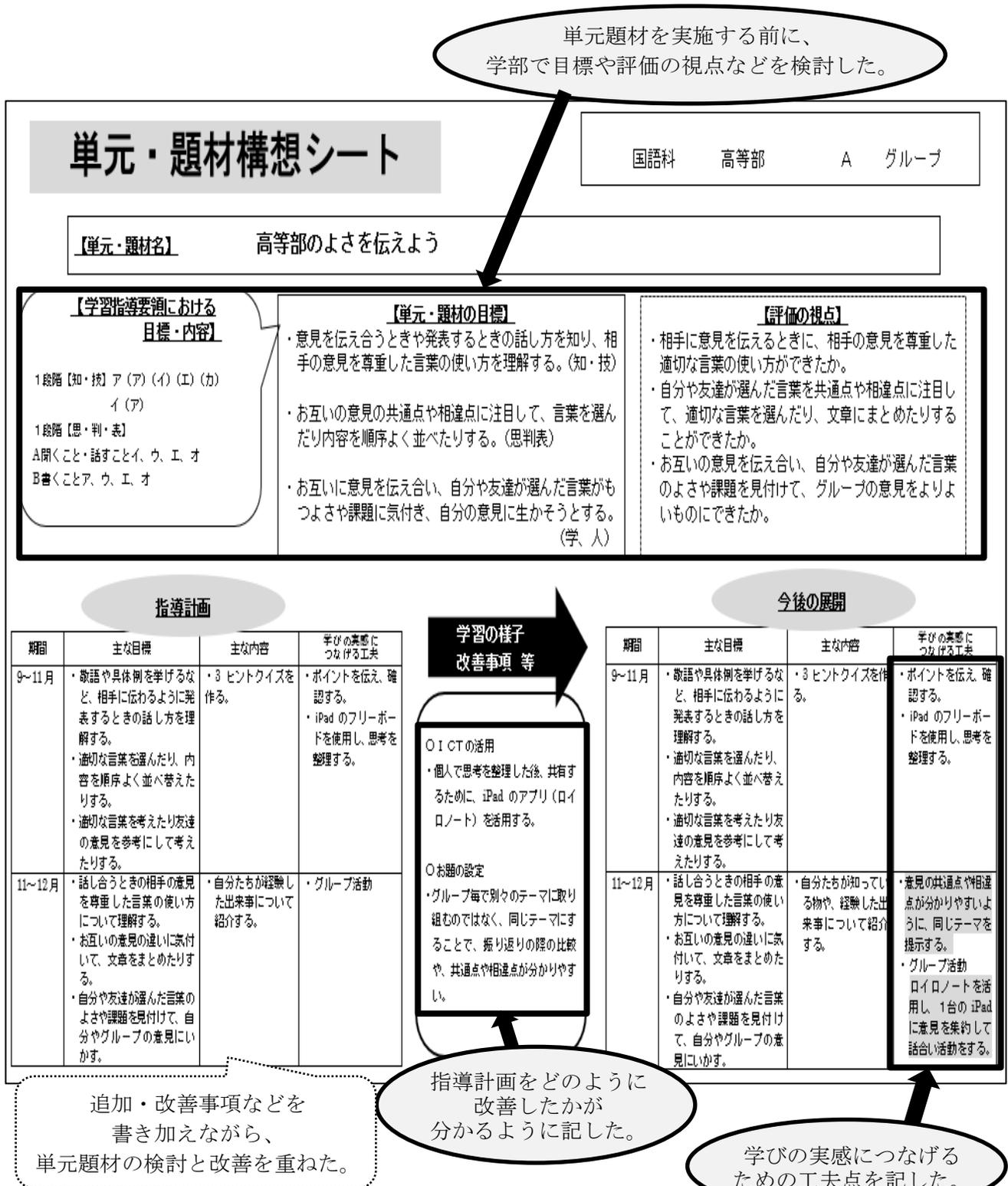
月	内容
4	25日(火) : 全校研究会① 27日(木) : 研究日・ICTミニ研修
5	12日(金) : 全校研究会② 23日(火) : 研究日・ICTミニ研修
6	13日(火) : 研究日・ICTミニ研修 単元・題材検討日①(令和5年度の絆プロジェクトについて)
7	7日(金) : 研究日・ICTミニ研修 26日(水) : 単元題材検討日②(研究対象教科の単元題材検討) ICT全体研修会
8	22日(火) : 研究日・ICTミニ研修
9	13日(水) : 全校授業研究会①(小学部・算数科) 19日(火) : 研究日・ICTミニ研修 29日(金) : 単元題材検討日③(絆プロジェクト前期振り返り、後期検討)
10	13日(金) : 研究日・ICTミニ研修 23日(月) : ICT実践事例を共有する会 教材を見合う会
11	14日(火) : 研究日・ICTミニ研修 24日(金) : 全校授業研究会②(中学部・国語科)
12	14日(木) : 研究日・ICTミニ研修 19日(火) : 全校授業研究会③(高等部・国語科)
1	12日(金) : 研究日 ICT全体研修会 19日(金) : 単元題材検討日④(対象教科の単元題材評価と次年度に向けて)
2	9日(金) : 単元題材検討日⑤(絆プロジェクト後期振り返りと次年度に向けて) 16日(金) : 全校研究会③(成果と課題、次年度に向けて)
3	11日(月) : 研究日・ICTミニ研修

7 研究の実際

(1) 児童生徒が主体的に学び、その学びを積み重ねる単元づくり

① 研究対象となる教科の目標及び評価の視点を明確にした単元づくり

- ・ 学部ごとの研究日や単元題材検討日で、全校授業研究会で授業提示をする学習グループについて、単元・題材構想シートを用いながら該当単元の検討を行った(図1)。その際、より具体的な検討、改善となるように、指導計画の改善点や学びの実感につなげる工夫等を単元・題材構想シートに具体的に記すようにした。また、研究対象とする教科の年間指導計画の検討と改善、評価を行い、それらを受けて次年度に向けた取組事項などを話し合った(図2)。



【図1：高等部 単元題材構想シート】
※各学部のシートは学部研究資料として添付

- ・1月の単元題材検討日に、今年度の単元題材を振り返り、次年度に向けた話し合いを学部ごとに実施した。次年度、単元題材立案の際に大切にしたいことや取り入れたいことなどについて意見を出し合い、共有を図った（図2）。

小学部・算数科 <ul style="list-style-type: none"> ・複数の視点からの児童一人一人の丁寧な実態把握と、それに基づく学習グループの編成 ・学びを活用する機会を見据えた単元題材の設定 ・ねらいを明確にした効果的なICT機器の活用 	中学部・国語科 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の丁寧な実態把握に基づいた単元題材の検討 ・学級担任と国語科指導者との、生徒の学びや課題等の情報交換 ・☆本などを用いた、学部全体での教材研究 	高等部・国語科 <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画を立てる際の、ねらいや内容の整理 ・他者とやり取りする内容の設定 ・言葉についての学びが、他者との円滑なコミュニケーションにつながることを実感できる内容の設定
---	---	---

【図2：次年度取り組みたいこと・大切にしたいこと（各学部・一部抜粋）】

＜成果：○ 課題：△＞

- 単元・題材構想シートを用いることで、単元題材の目標や評価の視点が明確となり、指導計画について具体的な改善事項を挙げることができた。
- 学びの実感につながるための学習活動や手立てを、教員が意識しながら単元題材づくりに取り組むことができた。
- 学部全体で単元題材について検討をし、意見を出し合いながら単元題材をつくりあげることができた。
- △授業で取り上げる題材や教材などについて、深く吟味することが必要であった。
- △他の学習活動との関連の見えにくさがあり、他の学習活動と効果的な関連をもたせることや、当該教科での学びを他の場面から見取ることなどが十分にできなかった。

②抽出児童生徒の変容の継続的な見取りと、それに伴う単元の改善

学部、または各学習グループから児童生徒を一名抽出し、その児童生徒の実態、目標を整理し、学習の様子を記録して共有した。そして、その様子を基に単元題材の改善を図った（図3）。

対象児童生徒： 中学部 3年 氏名： A		主体的に学ぶ：「自分から」知ろうとする、答える、疑問に思う、質問する、興味をもつ、提案する など 学びを実感する姿：自信をもって書いたり話したりしている。「何が分かったのか」を理解して、相対に教えたり説明したりしている。		
◎実態 「学習全期における、よさ・課題」「対象物におけるよさ・課題」など	◎ねらい 「何を、どの段階まで？」	◎学習内容 「何を、どのように？」 「ゆであて、振り返り方法はどうか？」	◎学習の様子 「主体的に学んでいたか？」 「学びの実感ができていたか？」	◎単元・題材の改善点 「何を、どう変える？」
<学習全般> ・理解力があり、内容がわかると自分で考えて取り組むことができる。 △初めての活動に対して不安感を持ちやすく、質問が多くなる。 ・アイデアを考えることができる。 △発表に対して自信がない。 △知らない言葉、知らないことが多い。 △自分の出来事や気持ちを整理して言葉で伝えることに課題がある。 <国語科> ・実態表（別紙）の中2段階からどの内容にもバランスよく△がつく。 △思ったことを文章にすることが苦手である。 △調べ学習で「何がわかったか」はわかるが、その情報を使って文章にすることが苦手である。 △文章に対する苦手意識から、友達の記事を見て同じような内容を書くことがある。 <ICT機器> ・iPadの操作を覚えるのが早く、一人で使うことができる。	・文章から必要な情報を抜き出す。 △実態把握 ・作文の基本的な対法を用いて、一人で文章を書く。 ・自分が伝えたい内容を順序立てて整理し、言葉や文章で表現する。 ・友達の記事を読んで、自分との違いを認めたり、よさなどに気付いたりする。	国語☆☆☆「除手紙」「自動車の今昔」 ・必要な情報の抜き出し ゆであての示し方 クイズにして提示 振り返りの仕方 ワークシートに個人で記入 作文～コンクール～用紙に添書しよう～ OSW1H1R（国語☆☆☆） ・文章をSW1H1Rで整理したり、書いたりする。 振り返りの仕方 黒板に添書して言葉で整理 ゆであての示し方 ・友達の記事を聞いての感想を個人で記入 ・授業の感想を個人で記入 ○拾得～中～終わり（国語☆☆☆） ・拾得～中～終わりで整理して文章を書いたり、その良さなどに気付いたりする。 ゆであての示し方 前時の内容を確認してから、黒板に添書 振り返りの仕方 ・ロイノードで提出した作文に線を引きながらゆであてを達成した作文になったという確認 ・友達同士で、文章を読んだ感想をカードに書いて交換する場面を設定 ・作文を書いた感想、気付いたことをワークシートに記入、口頭で共有	9月 ・必要な情報を抜き出すのではなく、文章をそのまま書いていた。 主）ワークシートの様式を毎時間同じにしたことで、主体的に記入することができた。 実）今日何の学習をしたのか、どんなことがわかったのかを単語で答えることができていた。 10月 ・SW1H1Rという用語に聞き慣れず戸惑う姿が見られた。1時間かけて説明をしたり、手本を示したりしたことで理解が進んだ。 ・友達の記事を聞いて、「おもしろい」と反応するようになった。友達の考えの良さなどに気付いていた。 ・SW1H1Rで整理することの必要性を知り、「使っていたい」と振り返りに記入していた。 【他の場面での活用、つながり】 キャリアノート、生活での教師への相談など ・ワークシートで整理した情報をどのように使ったかについて話している。文章を書くことができてきたことや、作文のテーマを自分の好きなことにしたこと、意欲的に書くようになった。 ・振り返りで、「文章を書くこと、拾得～中～終わりの順番がバラバラだと（内容が）わからなくなると思いました。また、お話の時もしゃべる順番がバラバラだと伝わらないと思いました」と記入しており、採法の必要性を感じている。 【他の場面での活用、つながり】 キャリアノート、生活での教師への相談など	・教師が生徒に「伝える」形が多い。 ・「自分のことは自分で」という意識が強く、生徒同士のやりとりが少ない。（プライドが高い） ○生徒同士の学び合い、認め合いが必要 ・生徒同士の評価場面を設定する。（「OOさんへ～がいいですね」などのメッセージカード形式） ・「教師が良いところを伝える→友達の良いところを生徒同士で伝える」という流れから、「生徒同士でよいところを見つけると教師が評価する」という流れに変えていく。（生徒自身で気付けるように） ・前時の生徒の様子を踏まえた学習内容、教材の工夫を継続していく。 ・これまでの学習を関連付けた言葉付けをする。

【図3：中学部 事例検証シート（一部抜粋）
※各学部のシートは学部研究資料として添付

児童生徒の変容から
単元の改善点を挙げる

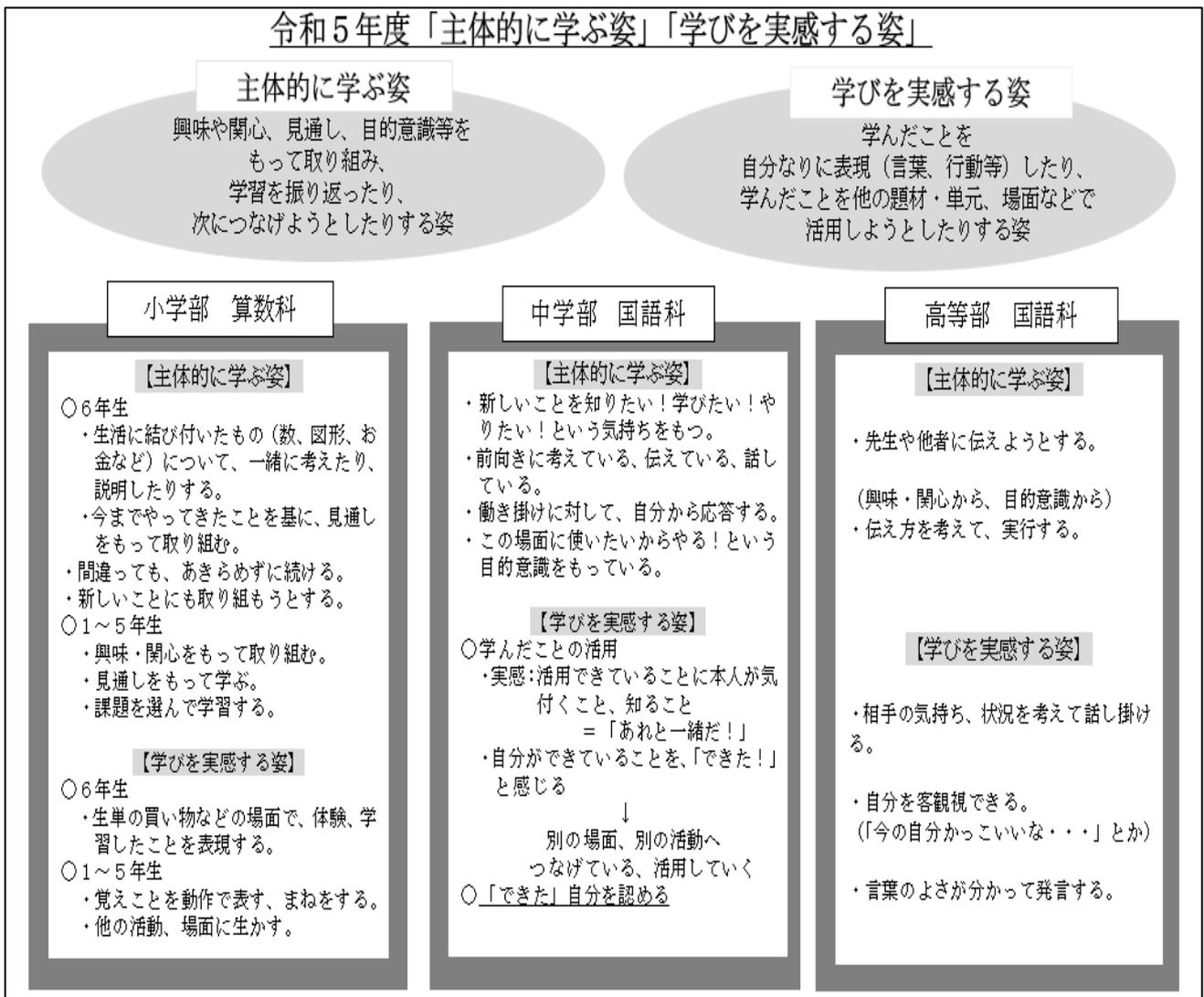
<成果：○ 課題：△>

- 児童生徒の様子を複数の視点で見取ることができ、より丁寧な児童生徒の実態把握につながった。また、事例検討を継続することで、児童生徒の変容を長期間に渡ってより深く広く見取ることができた。
- 児童生徒の様子の見取りだけで終わらず、単元題材の具体的な改善につなげることを意識し、児童生徒の変容に基づく単元の改善点を具体的に考えることができた。
- △今後は他の児童生徒についても同様に丁寧な実態把握と見取り、継続的な評価、そしてそれらを踏まえた単元・題材の改善に取り組んでいく必要がある。

(2) 児童生徒が学びを実感できる授業づくり

① 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり

- ・まずは「主体的に学ぶ姿、学びを実感する姿」について明確にすべきだと考え、4月、5月に児童生徒が「主体的に学ぶ姿、学びを実感する姿」について、学部、及び学習グループごとに検討して共有を図った。また、9月には、4、5月にまとめた児童生徒が「主体的に学ぶ姿、学びを実感する姿」について、前期の様子を踏まえて再度実態や学習の様子を整理し、見直しを図った(図3)。



【図3：主体的に学ぶ姿、学びを実感する姿 一覧】

※ 各学部のグループごとの姿をまとめたものは、各学部研究資料として添付

<成果：○ 課題：△>

- 年度当初に学部ごとに主体的に学ぶ姿、学びを実感する姿について検討、共有でき、指導の方向性を定めることができた。また、その内容について学部内だけでなく、学部を超えて共有を図ることができた。

△前期終了の段階で見直す機会を設定していたが、その他の機会でも、児童生徒の目指す姿や指導の方向性などをこまめに確認することが必要であった。

- ・9月以降、学部で実施時期を決めて授業実践シート（図4）を使用した授業改善に取り組んだ。研究対象教科の各学習グループで授業の目標や評価、めあてと振り返りの在り方を検討、実践し、改善を図った。

令和5年度

授業実践シート（小学部 算数科）

単元・題材名：おおきさくらべをしよう (2 / 8)	
授業日時： 11月 1日 (水) 2校時	授業者：
学習グループ： 小学部2年/グループ	
主な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・数の大小を比べる。 ・二数を比べて一方の数を「大きい」「小さい」といった言葉で表現する。
授業展開	<p>【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返り ・これから授業で使うものを見せる ・「比べる」について、指で二数を交互に指さしながら、演示して示す <p>めあて：かずをくらべよう (示し方：手順表の上部に記載する)</p> <p>【展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20秒間魚釣りゲームをする。 ①児童②教師（やらない方がタイマー係） ・それぞれの魚を並べて数え、数の分の数字カードを選んで置く。 ・量や数字を見て、「どちらが多いですか」「少ないですか」の質問に答える。（ジェスチャーで多い、少ないを表現しながら聞く） （児童、教師の魚釣りをする順番を変えてもう一度行う） <p>【振り返り/まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数えている様子の写真や、実際に使ったものを見せて「大きい、小さい正解してたね」と言葉で伝えたり、「〇〇ができてよかったです」とまねをしながら伝えたりする。 ・手順表の口にシールを貼る。
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・二数を交互に見ることができたか。 ・言葉や指さしで「多い」「少ない」と伝えられたか。
次時に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェスチャーで多い、少ないを伝える。 ・比べるときに、マス目を使ってどのくらい多い、少ないかを目で見てわかりやすくする。 ・差の大きいものだけでなく、少しの差のものを用いて難易度を上げる。

めあて、学習活動、振り返りの方法などを具体的に記入

評価する児童生徒の具体的な姿を記入

学びの実感につながる手立て

・遊びの場面や、日常生活の中でも「こっちが多いね」などと繰り返して伝える。
・数だけでなく、体験を通して多い、少ないを感じられる場面を作る。
(自分で持って重い軽いを感じるなど)

「学びの実感」を指導者が意識できるように、手立てを記入

【図4：小学部 授業実践シート例】

【授業実践シートを活用した授業づくりの流れ】

- ①各グループの指導者が、一単位時間の授業についてめあてや展開、振り返り場面などについて検討する。
- ②授業を実践する。
- ③授業を振り返り、次時に向けて再度検討する。

各グループの実践から見えてきた**授業づくりの悩みや課題を共有し、意見交換する。**

小学部で話題となったこと（授業実践シートより一部抜粋）

【振り返り/まとめ】

・手元を見て数えたり、仲間分けしたりすることができたが、即時評価をしたり、使った教材を見せながら、「見て入っていたね」「1つずつ指さしていたね」と言葉掛けをしたりして振り返る。

【振り返り/まとめ】

・時間いっぱい活動に取り組めたこと、姿勢に気を付けて取り組めたことを、本児に伝わりやすいように腕で大きな丸を作って見せて称賛する。

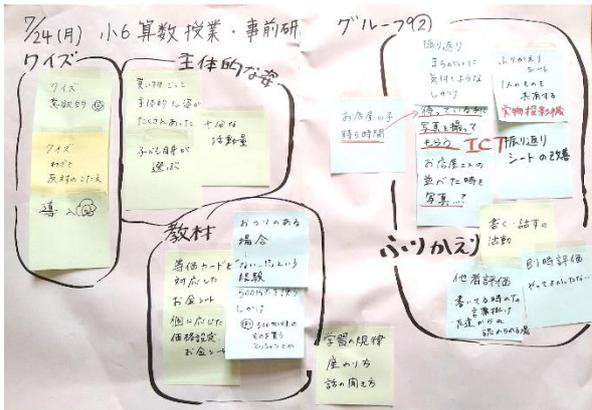
振り返りの場面が話題となり、各グループの様子、課題に感じていることなどを話し合った。その中で学習活動や手立てについて再度検討し、日々の授業づくりへとつなげている。

<成果：○ 課題：△>

- この実践を通して教員一人一人が自己の授業を振り返ったことで、各学部において授業で大切にしたい点や悩みを抱えている点などが明らかになり、それらについて意見を出し合うなど、一単位時間の授業について考えるきっかけとなった。
- △授業における課題としてめあてや振り返りの場面などが挙げられたが、その点について有効な改善案を出すまでには至らなかった。
- △期間を決めて実践を行ったが、単発的な実践となってしまったため、より日常的な授業づくりを活発にしていくための実践方法や時期の工夫が必要である。

②研究授業と授業研究会の実施

- ・全校授業研究会に向けて、各学部で事前授業研究会を行った。協議の中で出た改善案を基に、全校授業研究会当日に向けて授業改善を積み重ねた（図5、写真1）。



【図5：小学部 事前授業研究会 協議シート】

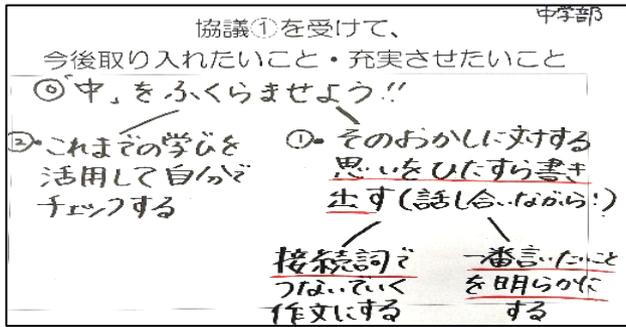


【写真1：小学部 事前授業研究会の協議の様子】

- ・9月に小学部、11月に中学部、12月に高等部が全校授業研究会を実施した。事後研究会では全校縦割グループで協議を行い、成果や課題、改善案について意見を出し合った（図6）。グループ協議の後は学部に分かれ、グループ協議の意見を基にして学部で取り入れたいことを話し合った（図7）。また、後日学部ごとに協議で出た意見を再度確認する機会を設定し、協議で出た成果や課題について共有を図った。

第1回全校授業研究会 (小学部・算数科)	第2回全校授業研究会 (中学部・国語科)	第3回全校授業研究会 (高等部・国語科)
グループ協議より抜粋した意見 ○：成果 課題：△		
<ul style="list-style-type: none"> ○児童を引き付ける導入 ○必然性のある題材の設定 ○他の学習（修学旅行）との関連付け ○個々の実態に即した教材 ○ICT機器の活用（写真、動画の活用） ○楽しんで取り組める環境設定、教材の工夫 △算数科としてのねらいの明確化 △実生活を想定した教材、場面設定 △学んだことのよさの理解、実感できる場面の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的なめあて ○ICT機器の効果的な活用（生徒がロイロノートを操作） ○安心して発言できる環境づくり ○生徒同士が評価し合う場面の設定 ○ポイントをおさえた板書、ワークシート △ICT機器と板書の使い分け △「作文」として、まとめていくための支援や学習展開 △めあてへの意識付け 	<ul style="list-style-type: none"> ○学びの積み重ねが見える掲示物 ○ICT機器の効果的な活用（ロイロノートのアンケート機能を使った振り返り等） ○授業と関連ある家庭学習の実施 ○整理された板書 ○生徒が意見を出すための観点の提示 △国語科としてのねらいの焦点化 △生徒の思考を支える教材 △めあてに立ち返る振り返りの在り方

【図6：全校授業研究会の成果と課題（抜粋）】



全校縦割りグループ協議の後に、学部ごとに分かれて、グループ協議で出た意見を踏まえて学部で取り入れたいこと、充実させたいことを話し合っただめた。

【図7：グループ協議を基に、学部で取り入れたいことをまとめた用紙（中学部）】

<成果：○ 課題：△>

- 事前授業研究会を実施したことで、授業について授業者だけでなく学部職員全員で考えることができ、成果と課題、及び改善案を検討することができた。
- 協議で出た成果と課題について、実際に協議で使用した模造紙を用いて確認する機会を後日設定したことで、成果と課題について理解を深め、共通理解を図ることができた。
- 小学部と中学部・高等部で対象としている教科は異なるが、授業づくりで共通している部分は多いため、協議で出た成果や課題などを授業づくりに生かすことができた。
- △協議で出された課題について、その後の授業でどう改善したかを検証することができなかった。

③ ICT機器の効果的な活用方法の検討と実施

- ・授業におけるICT機器活用を進めるために、まずはICT機器の活用事例を共有し知ることが大切だと考え、職員がICT機器活用の一人一実践を行い、その事例を共有し合う会を設定した(図8)。また、ICT活用の実践事例の紹介を受け、学部ごとに今後ICT機器の活用を進めていく際に取り入れたいこと、充実させたいことを話し合っただ共有した(図9)。

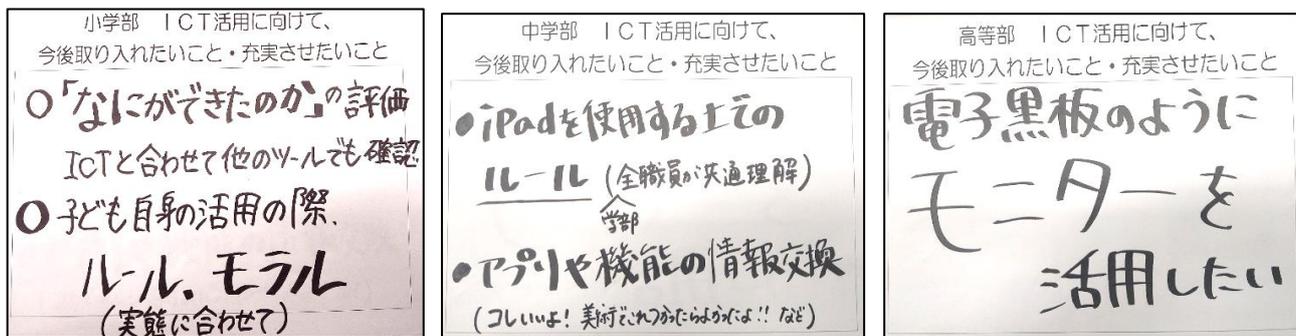
授業者	学習グループ 学習名	中学部 音楽	日時	6月29日
ICT機器活用のねらい		使用した機器		
・音階や小節、拍子などの音楽の要素を意識することを、ねらいとした学習に、楽しみながら取り組むため。		iPad、 (バーチャルピアノ、 ソングメーカー)		
活用の成果と課題				
【成果】				
<ul style="list-style-type: none"> ・全員が同時に楽器に取り組むことができる楽器数が確保できないところをカバーできた。 ・楽器への苦手意識や、音楽要素への意識付けの難しさが操作や視覚的な楽しさで取り組みやすくなった。 ・準備や片付けが簡単であり、生徒の学び合いができるような配置やペア、グループの組み方が容易にできた。 ・アプリも必要ないため、自分で検索して休み時間にもやっている様子が見られた。 				
【課題】				
<ul style="list-style-type: none"> ・音量を最大限にしても限りがあるため、集団で演奏する際に自分の音が分かりにくかった。 ・鍵盤は接触の仕方であまり音がでない時もあった。 ・楽しさが優先して、音楽要素についての確認が難しいところがあった。 				
 <p>「バーチャルピアノ」</p>		 <p>「ソングメーカー」</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・「バーチャルピアノ」～検索で使用することができる。鍵盤に階名がふってある。 ・「バーチャルドラム」「バーチャルギター」などもある。 ・「ソングメーカー」～検索で使用することができる。適当に色付けしても作曲を体験できる。楽器を選んで音色を変えたり、曲のテンポを変えたりすることもできる。 				

6月～9月の期間で教科を問わず、ICT機器を活用した事例を一人一事例行い、シートにまとめた。その際、活用のねらいを明確にし、活用の成果と課題を見取って記すようにした。



実践を集約したものを配付し、それを用いて縦割りグループで実践を共有し合う会を実施した。

【図8：ICT実践シート例、及び事例を共有し合う会の様子】



【図9：ICT機器の活用に向け、各学部の今後の取り組みたいこと、充実させたいこと】

- ・全校授業研究会で授業提示した学習グループの授業づくりにおいて、ICT機器の活用を検討、実践し、改善を図った（図10）。単発的な実践で終わらず、ICT機器活用のねらいと使用場面を十分に検討し、実践を受けて改善までつなげるようにした。

【ICT機器活用シート】

ICT機器活用場面①（10月 4日）		高等部 国語科 1・3年 Aグループ ICT機器活用場面②（11月 20日）	
活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が考えを視覚的に整理するため。 ・全体で意見を共有するため。 	活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士が意見を共有するため。
対象、機器活用場面	<ul style="list-style-type: none"> ・展開の場面で、生徒がiPadアプリ「フリーボード」を活用する。 	対象、機器活用場面	<ul style="list-style-type: none"> ・展開の場面で、生徒がiPadアプリ「ロイロノート」を活用する。
学習の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が「フリーボード」を使い、お題に合わせたヒントを挙げていき、順番を並べ替えることや、書き込みをしてヒントの優先順位をつけていた。 	学習の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が「ロイロノート」を使い、個人の意見を教師のiPadに集約し、意見を伝え合うことや、共通の意見をまとめることができた。 
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動の際に、生徒同士が考えを共有できるように、ロイロノートを活用する。 	改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で共有する話し合いのヒントカードや、学びの履歴にロイロノートを使用し、必要に応じて生徒が見ることができるようにする。

【図10：ICT機器活用シート（高等部）】

※各学部のシートは学部研究資料として添付

<成果：○ 課題：△>

- ICT機器活用の一人一実践をすることで、まずは職員全員が機器に触れる機会となり、各々が授業の中で活用しようとするきっかけにできた。また、校内の実践事例を集めて全職員間で共有したことで、自己の授業で生かそうとしたり、活用方法を改善しようとする様子が見られた。
- 全校授業研究会で授業提示をするグループについて、学部職員全員でICT機器の効果的な活用方法について検討し、改善を重ねることができた。
- △ 授業内におけるICT機器の活用について、実践や改善の積み重ね、及び実践の共有の機会をもっと増やし、日々の授業における実践を充実させていく必要がある。

④授業づくりの情報交換、共有の機会の設定

- ・授業づくりを進めていく上の手掛かりの一つとして、職員が各自指導しているグループ以外の授業の様子を知ることが必要であると考え、学部及び全校で教材を見合う会を行った（写真2）。まずは学部ごと、その後全校、という形で実施し、様々な教材に触れる機会とした。



【写真2：学部、及び全校での教材を見合う会の様子】



【写真3：展示した教材（一部）】

教材を展示する際は、対象児童生徒や学習のねらい、内容などを簡単に記入した用紙を貼り付けた。

教材は並べて自由に手に取ったり操作できるようにし、実際に教材に触れながら職員間で自由に質問ややり取りをできる形で実施した。

<成果：○ 課題：△>

- 他グループや他学部の教材を見合う機会がこれまでなかったため、興味をもって教材を見たり手に取ったりする職員が多かった。教材を見合う会を通して、他の学習グループの教材について、積極的に質問したり自分の授業の手掛かりとしようとした様子が見られた。
- △教材を見合う会は、日々の授業づくりにつながるよい機会であったため、回数を増やしたり実施時期を検討したりするなどして、次年度以降も継続していきたい。

(3) 実践を下支えする研修会の実施

①全校研究会の実施（全3回）

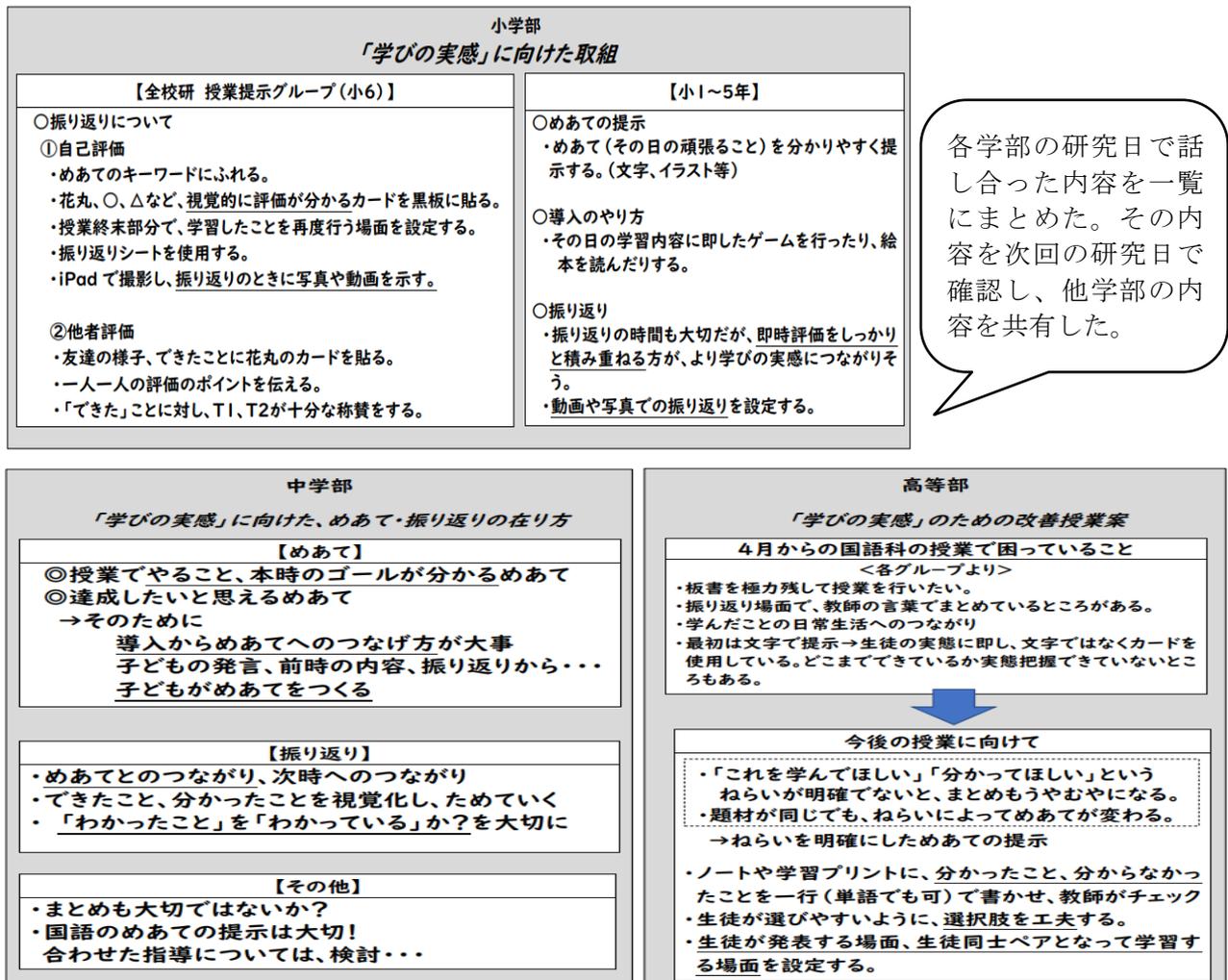
第1回全校研究会（4月）では全校研究について、第2回全校研究会（5月）では学部研究について説明し、全職員で方向性や重点の共有を図った。第3回全校研究会（2月）では、令和5年度の研究成果と課題を共有し、次年度の方向性や取組事項などについて意見を集めた。

<成果：○ 課題：△>

- 研究の方向性や内容、成果と課題などの共有を、全職員で図ることができた。
- △職員から研究に関する意見を取り上げながら進めていくために、年度途中であっても必要に応じて研究の方向性や内容について意見を募る場面を設定する必要がある。

②研究日の実施（月1回程度）

学部ごとに月1回研究日を実施し、学部研究を進めた。その際、他学部の研究内容を知ることができるように、学部で検討したことや話題になった内容をまとめ、他学部の取組の共有を図る機会を設定した（図11）。



【図1 1 : 各学部の研究日の内容をまとめた資料】

<成果 : ○ 課題 : △>

- 研究日では、全体で取り組む内容と共に、学部の実情や課題にせまる内容を取り上げてながら進めることができた。
- 各学部の研究内容の共有を図ったことで、その内容を踏まえた上で、学部ごとの検討や改善を進めることができた。
- △内容の共有ができた部分もあったが、十分でない部分も多かった。特に、全校授業研究会の授業づくりに関することは、学部を超えてより共有を図ることで、授業改善がさらに進むと考える。

③ICT機器活用に向けた研修会の定期的な実施

- ・ICT推進リーダーと連携し、7月と1月にICT全体研修会を実施した。7月の研修ではを3種類(電子黒板の基本操作、iPadの操作方法、ロイロノートの基本機能)に分けて設定し、研修したい内容を職員に選んでもらって実施した。1月の研修では、全校授業研究会の成果と課題、職員のICT機器活用の状況などを踏まえ、内容をロイロノートに絞って実施した。
- ・月1回の研究日の中で、学部ごとに児童生徒の実態やねらいに即したミニICT研修を実施した。学部の実態や実情、職員のICT機器活用スキルなどに合わせて内容を適宜変えながら行った。



【写真4：ICT全体研修会、学部ICTミニ研修の様子】

<成果：○ 課題：△>

- ICT研修会を定期的実施したことで、職員が機器に触れる機会が増え、苦手意識の改善や活用スキルの向上を図ることができた。
- 学部ごとのICTミニ研修を設定したことで、それぞれの実情に応じた内容を実施することができた。
- △ ICT機器活用のための職員の知識やスキルの獲得、向上が少しずつ図られてきてはいるが、まだ不十分な部分や、個人によって程度の差が大きい部分がある。学部や個人の実態に応じた研修内容の設定が必要である。
- △ ICT機器の活用方法を確認して終わりとするのではなく、日々の授業に生かせるように、授業内での活用を想定した形での研修の実施が必要である。

8 成果と課題

成 果

(1) 児童生徒が主体的に学び、その学びを積み重ねる単元づくり

・小単元、題材の検討と改善の充実

研究主題や学部研究の重点事項などに基づき、全校授業研究会に関する単元題材の目標や評価の視点、内容などについて、学部内で検討することができた。授業実践を重ねる中で、内容構成や大切にしたい点などについて改善を図ることができた。

・主体的に学ぶ姿、学びを実感する姿など、「児童生徒の姿」に着目した単元づくり

抽出児童生徒を決め、その変容を一定期間丁寧に見取り、その姿から単元題材の改善点を挙げる事ができた。その際、授業に携わる職員だけでなく、学部職員全員で抽出児童生徒の変容の共有や、単元題材の改善に取り組むことができた。

(2) 児童生徒が学びを実感できる授業づくり

・「主体的に学ぶ姿」「学びを実感する姿」の具体化

年度当初に全体、学部、各学習グループごとに「主体的に学ぶ姿」「学びを実感する姿」を具体化し、それらを目指した授業づくりを進めることができた。また、前期終了段階で、それまでの成果と課題を踏まえて見直しを図ることができた。

・授業研究会における成果と課題の整理と共有

事前授業研究会、及び全校授業研究会の成果と課題を学部内で丁寧に共有し、授業改善へとつなげることができた。

・ICT機器活用の検討と実践

ICT機器活用の一人一実践、及び授業研究会を通して、授業におけるICT機器活用の検討や改善を図ることができた。

- ・教材を見合う会の実施、授業実践シートの作成など、一人一人の職員が授業づくりへの意識を高められる取組

教材を互いに見合うことや、授業実践シートを用いた実践などを通し、職員一人一人が授業について情報共有したり、自己の授業について考えたりすることができた。これらの実践から、授業づくりにおける学部の課題や悩みが明らかとなり、それらについて話し合うことができた。

(3) 実践を下支えする研修会の実施

- ・研究日の活用

学部の実情に応じて内容を設定して研究を進め、学部ごとに検討した内容や実践などをまとめることで、他学部の研究内容について共有を図った。

- ・I C T機器活用に関する研修会の定期的な実施

研究日ではI C T機器ミニ研修を、長期休業では全体研修を行った。I C T機器活用に必要な知識やスキルを得られるように、定期的に研修を実施することができた。

課 題

(1) 児童生徒が主体的に学び、その学びを積み重ねる単元づくり

- ・「学びの実感」につながる単元題材の立案、及び改善

児童生徒の学びの実感につなげるためには、他の学習活動と効果的な関連をもたせることや、当該教科での学びを他の場面から十分に見取って改善につなげていくことなどが必要であり、それらを踏まえた年間を見通した単元題材の立案と改善が必要である。

- ・単元題材の目標、内容の明確化、焦点化と、扱う題材の吟味

教科として何を学ぶのかをしっかりと捉え、単元題材における目標や内容についてより明確化・焦点化し、扱う題材について吟味する必要がある。

(2) 児童生徒が学びを実感できる授業づくり

- ・めあてや振り返りの場面など、具体的な授業改善案の検討と実践

職員一人一人の実践から明らかになってきた授業の課題について、それらの具体的な改善案を十分に検討、実践していくことが必要である。

- ・I C T機器の効果的な活用の積み重ねと改善

I C T機器のさらなる効果的な活用方法を探り、実践と改善を積み重ねていく必要がある。

- ・授業づくりに関する情報共有の充実

日々の授業改善を活発にしていくために、授業に関する様々な情報を共有できる機会を充実させていく必要がある。

(3) 実践を下支えする研修会の実施

- ・学部を超えて内容を共有する機会の充実

各学部の研究内容や実践の要点について、共有の方法や機会を工夫する必要がある。

- ・実践的な内容の研修の実施

日々の授業にすぐに生かせるように、授業における活用場面を具体的に想定した研修を実施していく必要がある。

次年度に向けて

次年度は、同研究主題のまとめとなる一年である。今年度の成果と課題を整理し、成果はさらに充実を図り、課題については解決できるように、次の点に配慮しながら進めていく。

- ①「主体的に学ぶ姿」「学びを実感する姿」の実現に向けた年間を見通した単元づくり
実態把握に基づいて単元題材の目標や内容を精選し、その配列や他教科等との関連、成果の見取り場面などを検討・改善しながら、年間を見通せる形で単元づくりを進めていく。また、扱う題材についても十分に吟味する。
- ②一単位時間の授業における、具体的な改善の積み重ね
授業における課題を整理し、その解決のための具体的な改善案の検討と実践を充実させ、その積み重ねの中で有効な方法を明らかにしていく。
- ③ICT機器の効果的な活用実践
ICT機器を授業内で効果的に活用していくために、実践を充実させ、よりよい活用へとつなげていく。

小学部

小学部の研究について

1 研究主題 児童が主体的に学び、その学びを実感する授業づくり

2 学部研究の重点

- ・児童が見通しをもって学んだり、学んだことを実感したりするための支援の在り方について検討する。
- ・算数科の授業において、ICT機器を効果的に活用した授業づくりを行う。

3 重点の設定理由

小学部は、学校生活の始まりであり、家庭や学校での生活に関わる基礎的な力を獲得する時期である。また、家庭から学校、地域へと社会が広がっていく時期でもあると考える。

昨年度は、児童が主体となって学びをつないでいく授業づくりとして、児童の学びをつなぐための単元づくりや授業づくりに取り組んだ。児童が身に付けた力を発揮する場を効果的に設定したことで、児童が自信をもって活動に取り組めるようになったり、様々な場面で人とやりとりする場面が増えたりした。しかし、児童が達成感を感じることでできる支援や振り返りの方法については課題が残った。

また、生活単元学習ではICT機器を活用する機会が増え、児童が見通しをもって活動に取り組んだり、自分が頑張ったことを写真や動画で振り返ったりすることができた。しかし、生活単元学習以外の授業での活用については、まだ進んでおらず、活用の仕方について課題が残った。

そこで昨年度までの成果と課題を受けて、学部研究の重点を上記の二点とした。児童が見通しをもって学んだり、学んだことを実感したりするための支援や振り返りの在り方について検討することで、算数科の授業の質の向上につながり、資質・能力を確かに育てることができると考える。研究対象を算数科とした理由としては、児童が「分かった」「できた」と実感をもちやすく、身に付けたことを他の学習場面で生かしやすいためと考えたからである。また、ICT機器を効果的に活用した授業づくりを行うことで、児童の学習意欲を高めるとともに、より学びを実感することができると考え、重点を設定した。

4 研究仮説

算数科を対象教科とし、目標や評価を明確にした単元・授業づくり、及び一単位時間の授業におけるめあてや振り返り、手立てなどを工夫しながら授業改善を行う。これらの実践を積み重ねていくことで、単元や授業の質が向上し、児童一人一人が目的意識をもって主体的に学習活動に取り組み、学びを実感する姿を実現することができるだろう。

5 研究内容・方法

(1) 児童が主体的に学び、その学びを積み重ねる単元づくり

- ①研究対象となる算数科の目標及び評価の視点を明確にした単元づくり
 - ・研究対象となる算数科の年間単元、及び小単元の検討と評価
 - ・他の学習場面との関連付け
- ②抽出児童の変容の継続的な見取りと、それに伴う単元の改善
 - ・学年、学習グループにおける、抽出児童の実態や目標の検討と整理
 - ・抽出児童の変容の定期的な評価と共有
 - ・抽出児童の変容を受けた単元の改善

(2) 児童が学びを実感できる授業づくり

- ① 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり
 - ・ 「主体的・対話的で深い学び」の視点に沿った、一単位時間の授業の構成及び手立ての検討
 - ・ 一単位時間の授業の目標、及び評価の検討、改善
 - ・ 児童が主体的に学ぶ姿、学びを実感する姿の明確化
 - ・ めあてと振り返りの在り方の検討と実施、改善
- ② 研究授業と授業研究会の実施
 - ・ 事前授業研究会、全校授業研究会の実施
- ③ I C T機器の効果的な活用方法の検討と実施
 - ・ 学習活動における I C T機器の活用についての検討
- ④ 授業づくりの情報交換、共有の機会の設定
 - ・ 学部内で授業づくりに関する情報を共有する機会の設定
 - ・ 教材を展示し、見合う時間の設定

6 小学部研究計画

月	主な内容
4月	【研究日】 ・小学部研究の方向性の確認
5月	【研究日】 ・ICTミニ研修 ・「主体的に学ぶ姿」「学びを実感する姿」の確認
6月	【研究日】 ・ICTミニ研修 ・抽出児童の実態やねらいの確認 【単元・題材検討日①】 ・令和5年度のわいわいプロジェクトについて
7月	【研究日】 ・事前授業研究会 【単元・題材検討日②】 ・算数科の単元題材の検討 【教材展示会】 ・国語科、算数科の教材を展示し、見合う
8月	【研究日】 ・全校授業研究会に向けて ・ICTミニ研修
9月	【全校授業研究会】 ・全校授業研究会授業提示、研究会 【研究日】 ・全校授業研究会を終えて ・ICTミニ研修 【単元・題材検討日③】 ・絆プロジェクト前期の振り返りと後期の検討
10月	【研究日】 ・単元・授業をつくる会 ・ICTミニ研修
11月	【研究日】 ・単元・授業をつくる会
12月	【研究日】 ・学部研究の成果と課題について ・ICTミニ研修
1月	【研究日】 ・学部研究のまとめ（成果と課題） 【単元・題材検討日④】 ・算数科の単元題材の評価と次年度に向けて
2月	【単元・題材検討日⑤】 ・絆プロジェクト後期の振り返りと次年度に向けて
3月	【研究日】 ・次年度の研究に向けて

7 研究の実際

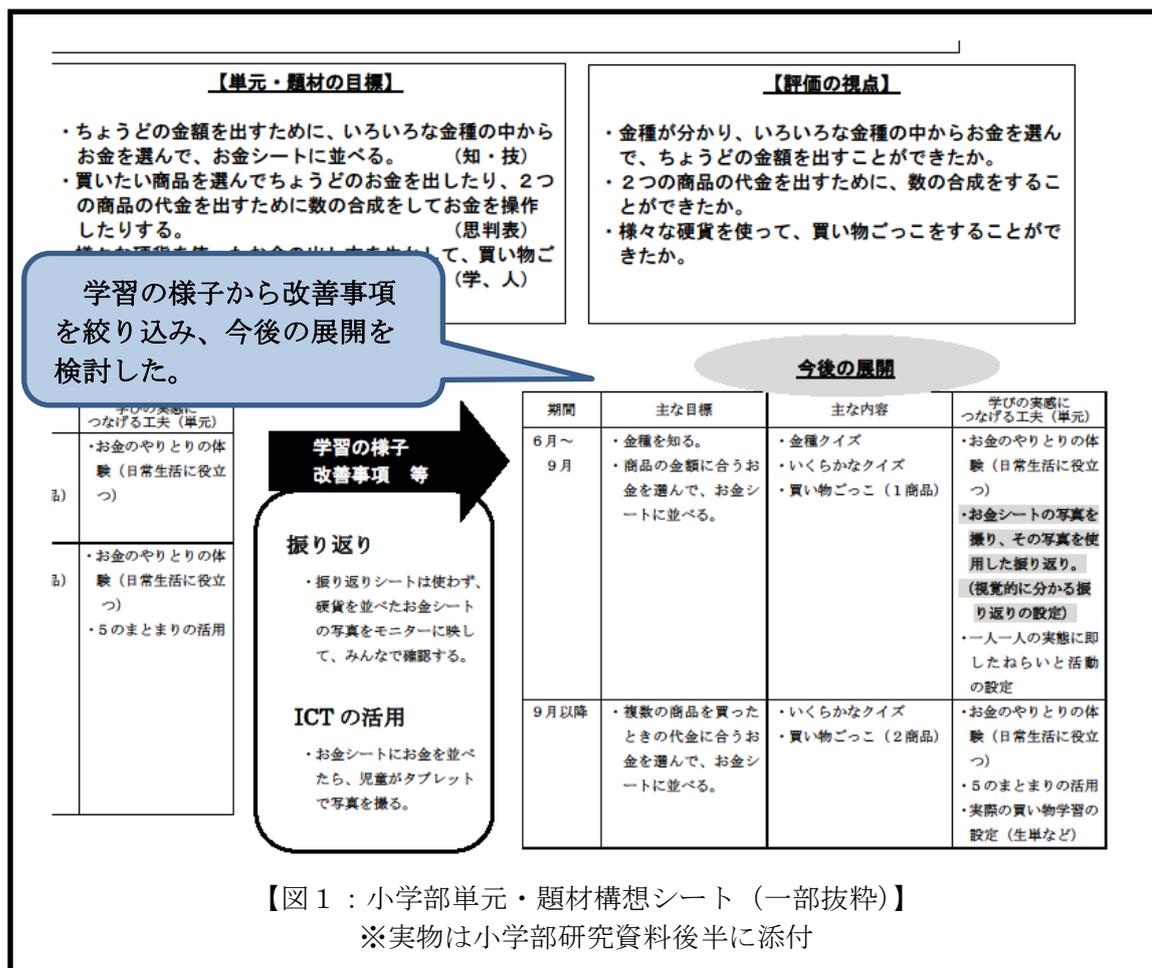
(1) 児童が主体的に学び、その学びを積み重ねる単元づくり

①研究対象となる算数科の目標及び評価の観点から明確にした単元づくり

- ・研究日に「単元・授業をつくる会」を実施し、小学部6年生の算数科の単元を検討し、改善を重ねた。
- ・単元題材検討日に、生活単元学習や各教科等との関連付けを行った。

<成果：○ 課題：△>

○単元・題材構想シートを用いて話し合いをしたことで、目標や評価の視点、改善すべき点が明確になった。(図1)



【図1：小学部単元・題材構想シート（一部抜粋）】

※実物は小学部研究資料後半に添付

②抽出児童の変容の継続的な見取りと、それに伴う単元の改善

- ・小学部6年生の算数科学習グループの中から抽出児童を一名選んだ。学部職員で抽出児童の実態や目標の検討と整理を行い、抽出児童の変容を共有したり、単元の改善につなげたりした。(図2)

<成果：○ 課題：△>

○学部職員で抽出児童の様子や変容を共有し、単元の改善について検討し、児童が学びを積み重ねるための単元づくりを実施することができた。

△研究日で抽出児童の様子や変容を学級担任から聞き取りし、学部職員で共有したが、実際の授業の様子を参観する機会は数回しかなかった。実際に授業を参観する機会を増やすことで、抽出児童の様子や変容をより深く理解し、単元の改善につなげることができるのではないかと考える。

教科： 算数			
B			
主体的に学ぶ姿：お金シートを使って、自分から課題に取り組む姿			
学びを実感する姿：分かったこと、できたことを具体的な言葉で伝える姿			
③学習内容 「何を、どのように？」 「めあて、振り返り方法は？」	④学習の様子 「主体的に学んでいたか？」 「学びの実感ができていたか？」	⑤単元・題材の改善点 「何を、どう変える？」	
<p>うどの金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店屋さんとお客さんを交替しながら、買い物ごこをする。 ・商品の値段にあったちょうどどの金額を出す。 <p>めあての示し方 黒板に板書（文字、イラスト）</p> <p>振り返りの仕方 発表</p>	<p>期間</p> <p>4月～6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金シートにお金を1枚ずつ並べている。 ・クイズで金額が当たると喜んでいる。 ・振り返りの発表では、何を発表したらよいか迷っていることが多い。 ・金額の理解がまだ曖昧である。 ・指示された金額ちょうどのお金を出せることもあるが、間違えることもある。 <p>【他の場面への学びのつながり】 自動販売機でのジュースの購入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの工夫 振り返りシートを記入し、発表する。 	
<p>めあての示し方 黒板に板書（文字、イラスト）</p> <p>振り返りの仕方 発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店屋さんとお客さんを交替しながら、買い物ごこをする。 ・商品の値段にあったちょうどどの金額を硬貨を選んで出す。 ・指定された 	<p>期間</p> <p>7月～9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習に見通しをもち、落ち着いて取り組めるようになった。 ・1円玉や10円玉、100円玉だけでなく、5円玉、50円玉、500円玉など、硬貨を選んで出すようになった。 ・指示された金額ちょうどのお金を正確に出せることが増えてきた。 ・振り返りで、自分なりに考えて発言しようとするが増えた。 <p>【他の場面への学びのつながり】 修学旅行の買い物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの工夫 児童が言葉だけでなく、ICTの活用 ・硬貨の写真を写す。 	

抽出児童の実態や学習の様子をまとめ今後の単元、題材の改善点を検討した。

【図2：小学部抽出児童 事例検証シート（一部抜粋）】
※実物は小学部研究資料後半に添付

(2) 児童が学びを実感できる授業づくり

①「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり

- ・算数科の各学習グループで授業実践シートを記入し、一単位時間の授業の構成や手立てを検討した。
- ・児童が主体的に学ぶ姿、学びを実感する姿を学部内で検討し、明確化した。
- ・小学部6年生の算数科学習グループと1～5年生の算数科学習グループの2つに分かれ、めあてと振り返りの在り方を検討した。
- ・学部内で小学部4・5年生の算数科学習グループの授業研究会を行った。

<成果：○ 課題：△>

- 授業実践シートを記入したり、めあてと振り返りの検討をしたりしたことで、各学習グループの児童が学びを実感するための学習活動や手立ての在り方を検討し、授業改善につながった。
- 学部内で算数科の授業研究会を実施したことで、学部職員で学習グループの児童の実態に合わせた教材のアイデアを出し合ったり、実生活につなげるための支援を考えたりすることができた。
- 小学部6年生は、修学旅行に向けた買い物の練習として、算数科の授業で商品を選び、お金を支払う経験を繰り返したり、校外学習で買い物体験をしたりした。そうしたことで、実際の修学旅行の買い物場面で、硬貨を選んで支払ったり、自分の所持金を見て購入できるか考えたりする様子が見られ、普段の学習での学びを発揮することができた。（写真1）
- △学部内に算数科の学習グループが7つあるが、お互いの授業を参観する機会がなく、授業実践シートを用いた情報共有を実施した。お互いの授業を参観する機会を設定することで、よりより授業づくりにつながるのではないかと考える。



【写真1：修学旅行での買い物の様子】

【修学旅行での買い物エピソード】

- ・レジが混んでいて、焦ってしまい、硬貨を選ぶ余裕がなかった児童がいた。
- ・自分の所持金を見て、購入できるか判断して、買う物を選んだ。
- ・550円を支払うのに、500円玉を出して、50円玉がなくて困ってしまった。教師の助言を聞いて、100円玉を追加して出した。

②研究授業と授業研究会の実施

- ・小学部6年生の算数科の研究授業提示を行うにあたって、7月に学部内で事前授業研究会を実施した。事前授業研究会では、主にICT機器の活用方法が話題に挙がり、児童が学習においてiPadを使用するように改善した。9月には、全校での研究授業と授業研究会を実施した。

<成果：○ 課題：△>

- 授業研究会を行ったことで、児童の実態に合った教材や学びの実感につなげるための支援などに関する様々な意見をいただき、よりよい授業づくりにつながった。

③ICT機器の効果的な活用方法の検討と実施

- ・学習活動におけるICT機器の活用について検討を重ねたり、学部内でICTミニ研修を実施したりした(写真2)。

<成果：○ 課題：△>

- ICT機器の効果的な活用方法や活用のタイミングなどについて検討し、実践につなげたことで、授業のねらいにせまることができ、児童の学びの実感にもつながった。
- ICTミニ研修を実施したことで、学部職員がICT機器の使い方やアプリについて知識を身に付けることができた。
- △小学部6年生の算数科の学習グループでは、ICT機器を活用した授業を実施した(写真3)が、それ以外の学習グループでの活用頻度はまだ少ない。一つの学習グループの担当職員が少なく、活用が難しかったという実情があったため、学習グループの検討も必要であるとする。



【写真2：学部のICTミニ研修】



【写真3：算数科の授業でのICT機器活用】

④授業づくりの情報交換、共有の機会の設定

- ・研究日で「単元・授業をつくる会」を実施し、学部内で授業づくりに関する情報を共有する機会を設定した。
- ・教材を展示し、見合う時間を設定した。

<成果：○ 課題：△>

- 授業づくりの情報交換を実施したことで、お互いの算数科の授業について知る機会となったり、授業についてアイデアを出し合ったりすることができた。また、情報交換を積み重ねたことで、ICT機器の活用の幅が広がったり、教材の工夫につながったりし、授業改善ができた。
- 教材展示会を行ったことで、他の学習グループで使用している教材を知る機会となったり、自分の学習グループの教材の参考にしたりすることができた。
- △教材展示会では、教材を展示するだけであったため、教材の使い方が分からないものもあった。教材の使い方の説明の添付や教材を使っている様子の動画も準備できると、より参考になるのではないかと考える。

8 成果と課題のまとめ

成 果

- ・小学部6年生の算数科学習グループの学習について、学部職員で話し合い、検討を重ねた。学習の様子や抽出児童の変容などを基に改善事項を絞り込み、今後の展開を検討したことで、児童が主体的に学び、その学びを積み重ねる単元づくりにつなげることができた。
- ・算数科の各学習グループで授業実践シートを記入したり、学部内で授業研究会を実施したりしたことで、学習活動や手立ての在り方を検討したり、実生活につなげるための支援を考えたりし、児童が学びを実感できる授業づくりにつなげることができた。
- ・ICT機器の効果的な活用方法を検討し、学習の中で実践したことで、児童が主体的に学ぶ姿が多く見られ、学びの実感につながった。
- ・研究日の際に授業づくりの情報交換を行ったり、夏季休業中に教材展示会を行ったりした。お互いの授業について知る機会となったり、授業についてのアイデアを出し合ったりし、児童の学びの実感できる授業づくりにつながった。

課 題

- ・単元・題材構想シートや抽出児童の事例検証シートを使った話し合いでは、改善すべき点が明確になり単元改善につながったが、年度始めに、担任だけでなく、学部職員全員で児童の実態把握をしたり、単元の構想を検討したりする機会があれば、学習グループの編成の参考になったり、各教科の年間指導計画を立案したりすることができるのではないかと考える。
- ・学部内で各学習グループの算数科の授業を参観する機会がなかったため、児童が学びを積み重ね、学びを実感するための単元・授業づくりにつなげるために、学部内でお互いの授業を参観する機会を設定していきたい。
- ・小学部6年生の算数科の学習グループでは、ICT機器を活用した授業を実践したが、それ以外の学習グループでの活用頻度はまだ少なかった。ICT機器を活用しやすい環境にするために、学習グループの検討をしたり、ICT機器の活用に関する研修内容を検討したりしていきたい。
- ・教材展示会では、教材を展示するだけであったため、分かりやすい展示の仕方を検討し、授業づくりの情報交換、共有の機会を設定していきたい。

小学部 主体的に学ぶ姿、学びを実感する姿

令和5年度 小学部 算数科 6年 グループ

現状

- ・算数科の実態に差がある。例えば数について、3以上が曖昧な児童、330以上唱えることができる児童など、その程度には差がある。
- ・ポッチャやすごろく、野球等のゲームで数を数えることには意欲的である。
- ・初めての活動には取り組むまで時間が掛かる児童がいる。
- ・数字が書けても数量と一致しないなど、意味理解が十分でないことがある。
- ・算数科で学んだことを思い出し、他の場面で使おうとする姿が見られる児童もいる。

主体的に学ぶ姿

- ・生活に結び付いたもの（数、図形、お金、時間など）について、一緒に考えたり、説明したりする姿
- ・今までやってきたことを基に、見通しをもって自分から取り組む姿

学びを実感している姿

- ・分かったことを、自分なりの言葉や身振り、教材などを使いながら伝えようとする姿
- ・生活単元学習の買い物学習等の場面で体験、学習したことを表現する姿

令和5年度 小学部 算数科 1～5年グループ

現状

- ・興味のあることには取り組める。
- ・児童自身が次の学習につなげるのは難しい。

主体的に学ぶ姿

- ・興味・関心をもって取り組む姿
- ・見通しをもって取り組む姿
- ・課題を選んで取り組む姿

学びを実感している姿

- ・覚えたことを動作で表す姿
- ・他の活動、次の活動に生かす姿

令和5年度 小学部 算数科 で大切にしたいこと

—算数科における実態、学部で目指す姿—

<実態>

- ・児童の実態差がある。
- ・興味があることには取り組める。



<目指す姿>

- ・興味をもって取り組む姿
- ・学んだことを生かそうとする姿

【学部で大切にしたいこと】

- ・数学的なものの見方を大切にする。
- ・生活とのかかわりを大切にする。
- ・児童が楽しく学習できるようにする。
- ・「わかった」「できた」と感じられるようにする。
- ・次の活動に生かせるようにする。
- ・実社会に生かせるようにする。

「学びの実感」に向けた取組事項

全校研 授業提示グループ（小6）

— 振り返りについて —

①自己評価

- ・めあてのキーワードにふれる。
- ・花丸、○、△など、視覚的に評価が分かるカードを黒板に貼る。
- ・授業終末部分で、学習したことを再度行う場面を設定する。
- ・振り返りシートを使用する。
- ・iPad で撮影し、振り返りのときに写真や動画を示す。

②他者評価

- ・友達の様子、できたことに花丸のカードを貼る。
- ・一人一人の評価のポイントを伝える。
- ・「できた」ことに対し、T1、T2が十分な称賛をする。

小1～5年

— めあての提示 —

- ・めあて（その日の頑張ること）を分かりやすく提示する。（文字、イラスト等）

— 導入のやり方 —

- ・その日の学習内容に即したゲームを行ったり、絵本を読んだりする。

— 振り返り —

- ・振り返りの時間も大切だが、即時評価をしっかりと積み重ねる方が、より学びの実感につながりそう。
- ・動画や写真での振り返りを設定する。

単元・題材構想シート

算数科 小学部 6年

【単元・題材名】 いくらかかな

【学習指導要領における 目標・内容】

- A 数と計算 2段階ア (ア) ㊦
2段階ア (イ) ㊦
3段階ア (イ) ㊦

【単元・題材の目標】

- ・ ちようどの金額を出すために、いろいろな金種の中からお金を選んで、お金シートに並べる。(知・技)
- ・ 買いたい商品を選んでちようどのお金を出したり、2つの商品の代金を出すために数の合成をしてお金を操作したりする。(思判表)
- ・ 様々な硬貨を使ったお金の出し方を生かして、買い物ごっこをする。(学、人)

【評価の観点】

- ・ 金種が分かり、いろいろな金種の中からお金を選んで、ちようどの金額を出すことができるか。
- ・ 2つの商品の代金を出すために、数の合成をすることができたか。
- ・ 様々な硬貨を使って、買い物ごっこをすることができたか。

指導計画

期間	主な目標	主な内容	学びの実感に つなげる工夫
6月 ～ 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金種を知る。 ・ 商品の金額に合うお金を選んで、お金シートに並べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金種クイズ ・ いくらかかなクイズ ・ 買い物ごっこ (1商品) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お金のやりとりの体験 (日常生活に役立つ)
9月 以降	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の商品を買ったときの代金に合うお金を選んで、お金シートに並べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いくらかかなクイズ ・ 買い物ごっこ (2商品) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お金のやりとりの体験 (日常生活に役立つ) ・ 5のまとまりの活用

学習の様子 改善事項

振り返りシートは使わず、硬貨を並べたお金シートの写真をもとに、みんなで見つけて、みんなど確認する。

ICTの活用

- ・ お金シートにお金を並べたら、児童がiPadで写真を撮る。

今後の展開

期間	主な目標	主な内容	学びの実感に つなげる工夫
6月 ～ 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金種を知る。 ・ 商品の金額に合うお金を選んで、お金シートに並べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金種クイズ ・ いくらかかなクイズ ・ 買い物ごっこ (1商品) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お金のやりとりの体験 (日常生活に役立つ) ・ お金シートの写真を撮り、その写真を使用した振り返り (視覚的に分かる振り返りの設定) ・ 一人一人の実感に即したねらいと活動の設定
9月 以降	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の商品を買ったときの代金に合うお金を選んで、お金シートに並べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いくらかかなクイズ ・ 買い物ごっこ (2商品) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お金のやりとりの体験 (日常生活に役立つ) ・ 5のまとまりの活用 ・ 実際の買い物学習の設定 (生単など)

抽出児童生徒 事例検証シート 小学部 対象教科：算数

<p>対象児童： 小学部 6年 氏名： B</p>	<p>主体的に学ぶ姿： お金シートを使って、自分から課題に取り組み姿 学びを実感する姿： 分かったこと、できたことを具体的に言葉で伝える姿</p>			
<p>①実態 「学習全般におけるよさ・課題」 「対象教科におけるよさ・課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しのある活動には意欲的に取り組める。 ・興味・関心をもち、進んで取り組んでいる。 ・数字に興味がある。繰り上がりのある計算が苦手だが、自分からやろうとはする。 ・金種はある程度理解している。 ・分からないこと、気になることを教師に聞いて解決しようとする。 △数字は分かるが、数量と一致していないことがある。数の合成、繰り上がりのある計算はまだ正確にはできない。 △指示された金額に合わせてもよさなどの金額を正確に出すことができない。 △順番にこだわり、譲れない。 △周りの進み具合や得意具合が気になる。 △買い物の経験が少ない。 	<p>②ねらい 「何を、どの総額まで？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・硬貨を選んで、ちよちよちの金額を出す。 	<p>③学習内容 「何を、どのように？」 「のめて、振り切り方法は？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店屋さんとお客さんを交替しながら、買い物ごっこをする。 ・商品の値段にあったちよちよちの金額を出す。 <p>のめての示し方 黒板に板書（文字、イラスト）</p> <p>振り切りの仕方 発表</p>	<p>④学習の様子 「主体的に学んでできたか？」 「学びの実感ができていたか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金シートにお金を1枚ずつ並べている。 ・クイズで金種が当たると喜んでいいる。 ・振り切りの発表では、何を発表したらよいか迷っていることが多い。 ・金種の理解がまだ曖昧である。 ・指示された金額ちよちよちのお金を出せることもあるが、間違えることもある。 <p>【他の場面への学びのつながり】 自動販売機でのジュースの購入</p>	<p>⑤単元・題材の改善点 「何を、どう変える？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り切りの工夫 振り切りシートを記入し、発表する。
<p>期間 7月</p>	<p>期間 7月</p>	<p>期間 7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店屋さんとお客さんを交替しながら、買い物ごっこをする。 ・商品の値段にあったちよちよちの金額を硬貨を選んで出す。 ・指定されたのめての示し方 黒板に板書（文字、イラスト） <p>振り切りの仕方 写真を使用した振り切り 個別の問い掛け</p>	<p>期間 7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習に見通しをもち、落ち着いて取り組めるようになった。 ・1円玉や10円玉、100円玉だけでなく、5円玉、50円玉、500円玉など、硬貨を選んで出すようになった。 ・指示された金額ちよちよちのお金を正確に出せることが増えてきた。 ・振り切りで、自分なりに考えて発言しようとするが増えた。 <p>【他の場面への学びのつながり】 修学旅行の買い物</p>	<p>・振り切りの方法 児童ができたを実感するには、言葉だけでなく、視覚的に分かるようにしたらいかがい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用（児童） ↓ 硬貨を並べたお金シートを写真に撮り、振り切りで使用する。

【ICT機器活用シート】

小学部 算数科 6年/グループ

ICT機器活用場面①（7月20日）	
活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が、児童の金種の名前を覚えていくか確認するため。 ・意欲的に活動に取り組むことができるようにするため。
対象、機器活用場面	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の場面（金種クイズ）で、教師がiPadとモニターを活用する。
学習の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・モニターに映る硬貨や紙幣のイラストをよく見て、意欲的に挙手してクイズに答えていた。 
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・モニターを使った金種クイズは継続。 ・お金シートに硬貨を並べたときに、iPadを使って児童が写真を撮る。振り返りの場面で、その写真を使って活動の振り返りをする。



ICT機器活用場面②（8月25日）	
活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が学んだことを実感するため。
対象、機器活用場面	<ul style="list-style-type: none"> ・展開の場面で、硬貨を並べたお金シートを児童がiPadを使って撮影する。
学習の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がiPadを使って撮影し、撮影した画像をAirDropで、教師のiPadに送る練習を行った。教師の話を聞いて、操作することができた。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・より児童が自分で操作できそうなものを取り入れたり、学習における活用場面を増やしたりする。

小学部 6年 算数科 学習指導案

日 時：9月13日(水) 2校時

場 所：小学部 5、6年教室

児 童：小学部 6年生 5名

指導者：森澤裕子(T1)、佐々木捷吾(T2)

1 単元名 いくらかな

2 単元の目標

- (1) ちょうどの金額を出すために、いろいろな金種の中からお金を選んで、お金シートに並べる。
(知・技)
- (2) 買いたい商品を選んでちょうどのお金を出したり、2つの商品の代金を出すために数の合成をしてお金を操作したりする。(思判表)
- (3) 様々な硬貨を使ったお金の出し方を生かして、買い物ごっこをする。(学、人)

3 児童と単元

(1) 児童について

本学習グループは、小学部6年男子4名、女子1名、合計5名で構成されている。ダウン症、ADHD、自閉症の児童である。言葉による指示を理解して活動に取り組むことができる。不正解を恐れて自ら解答を書いたり、発表したりすることに戸惑う児童もいるが、繰り返し学習することで自信が高まると、進んで学習に取り組むことができる。また、分からないことがあると黙ったり、活動が止まったりする児童がいる一方で、分からないことを自ら伝えられる児童もいる。学習に対する意欲は高く、ゲーム活動や具体物を使った学習に対して特に主体的に取り組む姿が見られる。しかし、日常生活の中で、物の数を数えたり、計ったりなど、数字を使う場面が少なく、数に対する関心は低い。ほとんどの児童は10までの数は理解できているが、10までの数の合成の理解には個人差がある。また、金種に関しては、ほとんどの児童が硬貨を見ても名称が分からず、5や10のまとまりで硬貨が変わることの理解も難しい。

6年生は今年の10月に修学旅行を控えており、お土産を買うことを楽しみにしている。買い物については、店に行き、自分で代金を支払う経験はほとんどないが、家族と買い物に行って支払う様子を見ていたり、校外学習でスーパーのセルフレジで支払いをしたりしたことはある。また、自動販売機のジュースを選んで買った経験もある。しかし、どの硬貨を組み合わせればよいか、自分で判断することは難しい。

(2) 単元について

本単元は、年間を通して、金種について学んだり、お金を使って買い物ごっこをしたりする活動に取り組む。お金は欲しい商品と交換する際に必要な道具である。そのため、自分の好きな物が手に入るという動機付けができ、意欲的に取り組むことができると考える。また、本物のお金を扱うことで、金種の名称を知るだけでなく、硬貨の大きさや色、重さ、表と裏の模様等、お金を手にしたときの感覚を養うことも期待できる。さらに、買い物ごっこを取り入れることで、実際の買い物で行われるようなやり取りを繰り返し体験することもできると考える。また、1円玉や5円玉は1円玉の枠、10円玉と50円玉は10円玉の枠のお金シートに並べる操作活動を行うことで、各桁に対応する金種を覚えるとともに、各桁の数の大きさを理解することにつながると考える。そして、5円玉、50円玉、500円玉を意識して使っていくことで、1枚1枚順番に数えるよりも5のまとまりを出した方が早いことにも気づき、数への興味・関心を高めることができるとともに、日常生活面でも役に立つスキルを獲得できると考え、本単元を設定した。

(3) 指導に当たって

〈学習活動〉

- ・児童が見通しをもって取り組めるように、学習の流れを黒板に提示したり、活動の順番や流れを一定にして繰り返したりして行う。(主)
- ・児童が興味・関心をもって活動に取り組めるように、金種クイズをパワーポイントで提示したり、買い物ごっこのような設定にしたりする。(主・深)
- ・お金を支払う体験が繰り返しできるように、お店屋さんとお客さんの役割を交代しながら買い物ごっこをする。(対・深)
- ・お金を正しく数える体験の場が多くもてるように、お店屋さんもお客さんが持ってきたお金をお金シートに並べて確認する。(主・深)

〈場の設定、教材・教具〉

- ・グループでの活動が分かりやすいように、黒板にグループごとに名前カードを貼る。(主)
- ・買い物ごっこの見通しがもてるように、教室の前におもちゃの商品を並べておく。(主)
- ・一人一人が金種ごとにお金が出せるように、各児童に適したお金シートを工夫する。(主)
- ・お金の形や色、重さが理解できるように、本物のお金を使用する。(深)
- ・買う前に商品と値段が分かるように、個々にメニュー表を配付する。(主)
- ・買い物ごっこで誰がどの商品を買ったか分かるように、おもちゃの商品と同じ写真カードを用意し、黒板に貼っていく。(主)
- ・ちょうどの金額が出せるようになったか確認するために、お金シートに金額を書く活動を設定する。(主・深)
- ・5円玉や50円玉、500円玉を使ってお金が出せるようにするために、1円玉や10円玉100円玉の数を決めて配付する。(深)
- ・自分の使う物の管理ができるように、個々にかごを用意する。(主)

〈教師の働き掛け〉

- ・児童が意欲や見通しをもって活動に取り組むことができるように、児童の取組を即時評価で称賛したり、本時の学習をもとに、次時につながる言葉掛けをしたりする。(主・対)
- ・児童の把握がしやすいように、場面やグループで教師の役割を分担する。(対)

4 指導計画（総時間数 26時間）

学習活動	ねらい	時数
○いくらかな ～お金を知ってる?～ ・金種クイズ ・次の時間への見通し	・お金にはいろいろな種類があることを知り、これからの学習に関心・意欲をもつ。(思判表)	1時間
○いくらかな ～ちょうどのお金をだそう～ ・金種クイズ ・金種の名前 ・いくらかなクイズ ・買い物ごっこ（1商品）	・お金の種類が分かり、金種シートに金種の名称を書く。(知・技) ・商品の金額に合うお金を選んで、お金シートに並べる。(知・技)(思判表) ・グループの友達と交代でお店屋さんとお客さんになり、買い物ごっこをする。(学、人)	時間 (本時 17 / 19時 間)
○いくらかな ～ちょうどのお金をだそう2～ ・いくらかなクイズ ・買い物ごっこ（2商品以上）	・同じ商品を複数買ったり、違う商品を複数買ったりしたときの代金に合うお金を選んで、お金シートに並べる。(知・技) ・自分に合ったお金シートを選んで、お金を並べる。(思・判・表)	6時間

5 本時の計画（総時数18／26）

（1）全体の目標

- ・金種が分かり、商品に合ったちょうどの金額を5円玉、50円玉、500円玉を使ってお金シートに並べる。（知・技）
- ・様々な硬貨を使ったお金の出し方を生かして、グループの友達と役割を交代しながら、楽しい雰囲気で購入ごっこをする。（学、人）

（2）個別の目標

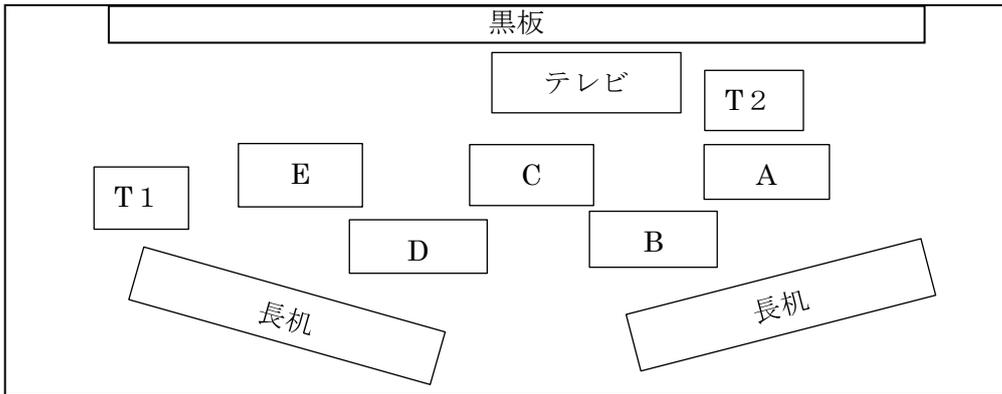
氏名	児童の実態と学習の様子	個別の指導計画の目標（年間）	単元の目標	本時の目標
A	<p>買い物の経験はほとんどなく、5年生のときの校外学習では、セルフレジのお金を入れるところが分からず教師の支援が必要であった。物を選ぶことに時間がかかる。数字に関することは得意であり、簡単な1位数+1位数（繰り上がりなし）であれば、即答できる。金種については、5円玉や50円玉も分かるようになり、それを使ってちょうどの金額を出すようになってきた。お店屋さんになると、どの商品がよく売れたか報告する等楽しそうにしている。</p>	<p>・5,000円までのお金を数えたり、簡単な買い物ごっこをしたりする。</p>	<p>・様々な硬貨を使って、ちょうどの金額を出す。 （知・技）</p> <p>・複数の商品の代金の合計を出す。 （思判表）</p> <p>・自分で買う商品を選んで、買い物ごっこをする。 （学、人）</p>	<p>・5円玉や50円玉、500円玉を使って、ちょうどの金額をお金シートに並べる。（知・技）</p> <p>・グループの友達と役割を分担しながら買い物ごっこをする。 （学、人）</p>
B	<p>自動販売機でジュースを買うときには、迷わずお金を入れていた。算数に関心があり、自分で計算問題を考えてどうやって解くのか、教師に聞くことがある。2位数+2位数のたし算は、位同士をたすことは理解できていない。金種を知ると、5円玉や50円玉を使ってお金を出そうとするが、急ぐあまり硬貨の数を間違えてしまうことがあるり、正確な金額を出す確率が低い。買い物ごっこでは、お店屋さんになると、少し荒い口調や態度になるときがあるが、教師の「両手で商品カードを渡すよ」など言葉掛けを聞いて、丁寧にやり直すことができる。</p>	<p>・5,000円までのお金を数えたり、簡単な買い物ごっこをしたりする。</p>	<p>・金種の名前を覚えて、1円～1,000円までを使って商品の金額を出す。 （知・技）</p> <p>・2種以上の商品の代金の合計を出す。（思判表）</p> <p>・自分や友達の代金を確認したり、友達とのやりとりを楽しんだりしながら買い物ごっこをする。（学、人）</p>	<p>・5円玉や50円、500円玉を使って、ちょうどの金額をお金シートに並べる。 （知・技）</p> <p>・グループの友達と役割を順番通り分担して買い物ごっこをする。（学、人）</p>

C	<p>昨年、自動販売機の学習をしており、1円から1万円までの金種が分かっている。まだ、5円玉や50円玉を使って、お金を出すことに慣れておらず、1円玉や10円玉を1枚1枚並べながら数を数えてお金シートに硬貨を並べている。買い物ごっこのお店屋さんでは、教師と一緒に金の確認をするために、お金シートに友達の持ってきたお金を1枚1枚並べて、合っているか確認することができるようになってきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2桁のお金を数えたり、簡単な買い物ごっこをしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1円から1,000円までを使って、お金シートに商品の金額を出す。 (知・技) ・お店屋さんになって、友達の持ってきたお金をお金シートに1枚ずつ並べる。(思考判) ・金種クイズやいくらかクイズに楽しく取り組む。 (学、人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・等価が分かる等価カードを使いながら、5円玉や50円玉、500円玉を使って、商品の代金をお金シートに並べる。(知・技) ・お店屋さんになって、友達の持ってきたお金をお金シートに並べて代金を数えようとする。 (学、人)
D	<p>5年生のときの校外学習の買い物体験では、予算1,000円に対して、品物の合計が1,000円を超してしまった。また、自動販売機で140円のジュースを買うときに、10円を5枚入れてから100円を入れていた。金種は1円玉～100円玉までは分かっている。商品の金額を出すときに、等価カードを使いながら、5円玉や50円玉を使おうと、意欲がある。分からないことや自信がないことになると、自分から「やらない」と話し、活動が止まることがある。お店屋さんになると「いらっしゃいませ」と元気よくお客さんに声を掛けて楽しく活動している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・500円までのお金を数えたり、簡単な買い物ごっこをしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1円玉から500円玉までの金種の名前を覚える。 (知・技) ・お金シートの1桁、2桁の枠に金種ごとにお金を並べて、ちょうどの金額を出す。 (知・技) ・お金をやりとりして、買い物をする楽しさを感じながら買い物ごっこをする。(学・人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師にヒントをもらったり、等価カードを使ったりしながら、金種ごとにお金シートに並べる。(知・技) ・お店屋さんになって、友達の持ってきたお金をお金シートに1枚ずつ並べる。 (学、人)
E	<p>家庭では、買い物と一緒に行くことがあり、家族のすることをよく見ている。そのため、5年生のときの校外学習では、セルフレジのお金の挿入口が分かり、支払いがスムーズであった。1円玉と10円玉と100円玉はだんだん分かってきて、教師と一緒に数えながらお金シートに金種ごとに分けて出せるようになってきているが、5円玉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・500円までのお金を数えたり、簡単な買い物ごっこをしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1円玉、10円玉、100円玉の名前を覚える。(知・技) ・1枚1枚お金を数えて、金種ごとにお金をシートに並べる。(思判表) ・「いらっしゃいませ」とお客さんに声を掛けながら、買い物ごっこを楽しむ。(学・人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や友達からヒントをもらいながら、お金シートに金種ごとにお金を並べる。(知・技) ・グループの友達と役割を分担しながら買い物ごっこをする。 (学、人)

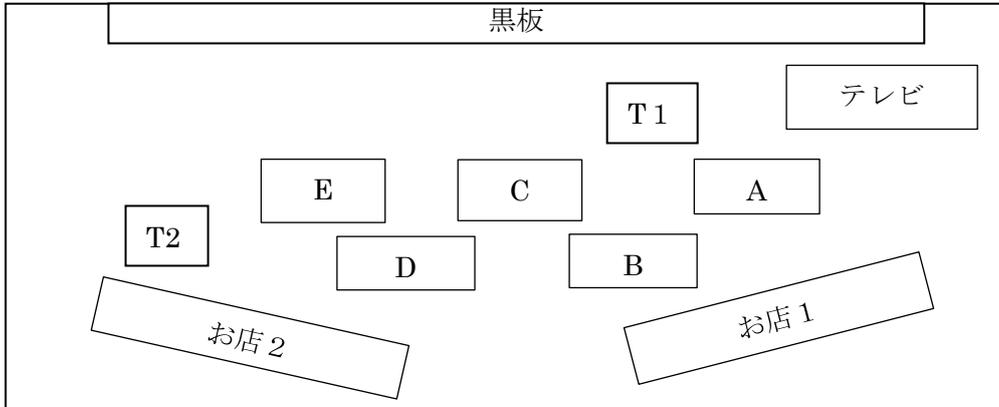
	や50円玉、500円玉はまだ理解できていない。また、数字をお金シートに書き写すとき、反対に書いてしまうときがある。時々、自分のやり方が正しいと主張し続けるときがある。お店屋さんの際は、なりきって楽しそうに活動している。			
--	---	--	--	--

(3) 配置図 <小学部5・6年教室>

活動1・2・4・5



活動3



(4) 板書計画

いくらかな

タイム
タイマー

めあて (5円玉、50円玉、500円玉をつかってちょうどのお金をだそう！)

D

C

E

B

A

☆

☆

※おもちゃの商品の写真カード

学習の流れ

クイズ
めあて
買いものごっこ
ふりかえり

(5) 学習過程 ※ゴシック体は、学びの実感に関する手立て

時間(分)	学 習 活 動	教師の働きかけ、手立て	準備物等
9:45 (10)	1 始めのあいさつをする。 2 本時の活動を見通す。 (1)「金種クイズ」をする。 (2)「いくらかなクイズ」をする。 (3) めあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動に見通しがもてるように、黒板に活動カードを貼っておく。(T1) ・金種の名前を覚えているか確認し、楽しい雰囲気を始められるように、「金種クイズ」を一斉で行う。(T2) ・複数の硬貨を合わせたときのお金の読み方に慣れるために、金種を組み合わせてクイズを出題する。(T2) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> めあて 5円玉、50円玉、500円玉をつかって ちょうどのお金をだそう！ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・5円玉、50円玉、500円玉を使ってお金を出すことを意識付けるために、お金の特徴を絵で表す。(T1) ・視覚的にグループが分かるように、名前カードを黒板に貼っておく。(T1) 	活動カード テレビ タブレット 名前カード
9:55 (20)	3 買い物ごっこをする。 太陽チーム (A、B) 星チーム (C、D、E) (買い物ごっこの流れ) (1) 商品を選ぶ。 (2) お金シートに金額を書く。 (3) お金シートにお金を並べる。 (4) タブレットでお金シートを写す。 (5) お金を財布(トレイ)に入れてお店に行く。 (6) 商品カードをお店屋さんに渡す。 (7) お店屋さんがお金シートにお客さんの持ってきたお金を並べて確認する。 (8) お金が合っていれば商品カードをもらって、黒板に貼る。 (商品) ・ビスケット…15円等	<ul style="list-style-type: none"> ・準備や後片付けがしやすいように、使う物をひとまとめにしてかごに入れておく。 ・買い物の体験ができるように、グループ内でお店屋さんとお客さんの役割を交代しながら、買い物ごっこをする。 ・買い物の雰囲気を出すために、おもちゃの商品を長机に並べる。 ・お店屋さんも金額の確認をするために、お金シートを準備する。 ・児童の実態に合わせたグループに分け、グループごとに値段の設定を変える。 ・買い物に結び付けてお金が数えやすいように、一人一人に合ったお金シートを準備する。 ・机上で買う物の金額が分かり、買い物がスムーズにいくようにするために、メニュー表に商品の写真と金額を書いておき、各自に渡す。 ・お金シートにいくら出したかが後で分かり、画像に写せるように、一人1台ずつタブレットを準備する。 ・5円玉や50円玉を使っている様子が分かるように、教師がタブレットで動画を撮る。(T1) ・5円玉や50円玉を使ってお金を出していたときや教えていたときには、教師はハンドサインや言葉で即時評価する。 	※かご(各自) ・お金シート ・ホワイトボードマーカー ・お金(お金ケースの中) ・財布又はトレイ ・メニュー表 ・等価カード(個に応じて) タブレット ※お店屋さん ・おもちゃの商品(各グループ) ・おもちゃの商品の写真カード(人数分) ・お金シート ・ホワイトボードマーカー ・サンバイザー ・お金を入れる箱
10:15 (15)	4 本時の振り返りをする。 (1) 各自タブレットで撮った写真の中から1枚だけ選んで送信する。 (2) テレビに映ったお金シートの画像や動画	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で撮った写真を見て振り返られるように、写真を見る時間を設定する。 ・めあてについて振り返られるように、児童が 	タブレット テレビ

	を見る。	撮ったお金シートの画像を提示しながら発問する。(T1) ・金種を選んでお金シートに並べている様子が視覚的に分かるように、タブレットで撮った動画を提示する。(T1)	
5	終わりのあいさつをする。		

(6) 評価

- 〈生徒〉・5円玉や50円玉、500円玉を使って、お金シートにお金を並べることができたか。
・お店屋さんとお客さんになって、楽しく買い物ごっこをしているか。
- 〈教師〉・児童が金種を意識してお金を数えることができるような、教材や教師の働き掛けであったか。
・児童が意欲をもって取り組める環境設定や教師の働き掛けであったか。

(7) 個別の目標（本時）に関わる支援

児童名	目標を達成するための教師の働き掛け、手立て	支援を行う学習活動
A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に集中できないときは、「前を向くよ」や「背筋を伸ばして」など教師が言葉を掛ける。(T2) ・5円玉や50円玉などを使いながらちょうどのお金をお金シートに並べているときには「5円玉使えていいよ」などすぐに教師が言葉を掛ける。(T2) ・商品を選ぶときに迷っていたら、「ドーナツとビスケットどっちにする」等選択を絞った言葉掛けをする。(T2) 	活動全般 3 買い物ごっこ
B	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いてお金が数えられるように、「もう一度数えて」や「5円玉使えるよ」など、教師が言葉掛けをする。 	3 買い物ごっこ
C	<ul style="list-style-type: none"> ・5円玉や50円玉が自信をもって使えるように、1円玉5枚で5円玉と表と裏を見ながら等価が分かる等価カードを渡す。 	3 買い物ごっこ
D	<ul style="list-style-type: none"> ・金種ごとにお金を選んで並べられるように、お金シートに金種に合ったお金のイラストを貼る。 ・お金が数えやすいように、お金シートのマス目に番号をふる。 ・5円玉や50円玉が自信をもって使えるように、等価カードを渡す。 	3 買い物ごっこ
E	<ul style="list-style-type: none"> ・金種ごとにお金を選んで並べられるように、お金シートに金種に合ったお金のイラストを貼ったり、位ごとに色分けをしたりする。 ・お金が数えやすいように、お金シートのマス目に番号をふる。 ・5枚以上硬貨を数えたら等価カードを見せながら「5円玉使えるよ」と教師が言葉掛けをする。 	3 買い物ごっこ